



## 自分の命よりも娘：ゆりあちゃんの命を望んだ母

No.2

「おしゃれ：ゆりあにはおしゃれを楽しんでほしいな。たくさん、たくさん可愛くなってほしい。女の子だから味わえる素敵な楽しみがたくさんあるよ。ママが手伝ってあげたいなあ。ゆりあの髪を毎日違う格好に結ってあげたり、いろんなお洋服を着せたり、ママも楽しみたいです。アクセサリーも楽しんでほしい。ママのがあるから使っているからね。パパに言うておくから。女の子はお金がかかるってね。」



「お友だち：ゆりあには、いいお友だちがたくさんできることをママは願っています。大事なことは、お友だちと、自分をすぐ比べないこと。ゆりあという人間は世界にたった一人しかいません。あなただけです。だから、あなたは誰にも比べられないのよ。ゆりあもきっと悩むときが来るんだろうな。ママが助けてあげたいよ！」



「けんか：ゆりあは女の子だから、なぐり合うようなけんかはあまりしないと思うけど、口げんかはやっぱりよくするかも。最近の若い人には自殺するところまで我慢してしまう人がいるそうです。馬鹿みたいだね。たいていのことが死ぬほどのことじゃないのに、逃げちゃえばいいのにね！人間は一人で生まれきて、一人で死んで行くんだから、寂しいけど、最後は一人なの。だから生きている間は、いっぱい好きな人と

一緒にいて楽しい思いをするのよ！」、伝えたいことは山ほどあります。次から次へと浮かぶ伝えたい言葉。しかし、病魔は晃子さんから、伝言を書く力さえも奪い始めました。

ならば、声を残そう！晃子さんはあらん限りの力を振り絞って、テープにゆりあちゃんへのメッセージを録音していきます。痛みと苦しみと闘いながら、テープに吹き込む娘への想い。心の叫びが切なく響きます。あふれる涙をおさえきれず、泣きながら一語一語心を込めて語る晃子さん。「ママの身体は良くなりません。せつかくゆりちかを産んで、赤ちゃんにはお母さんが絶対、絶対絶対必要なんですけど…、あなたにいっぱいいっぱい教えたいことがあるんですけど…、いっぱい話したいことがあるんですけど…、ママはあなたと一緒に生きることができないみたいです」「ママは死にたくないです！死にたくないです！」晃子さんは本の最後でこう語っています。「ゆりあ、あなたはママが生きる目的です」。母の愛が詰め込まれた『ゆりちかへ～ママからの伝言～』は、ゆりあちゃんの支えとなり、大きな愛で包み込んでいくことでしょう。

